

地創製の功績にたいして記念式を開き記念品を送った。出席者二百名、一般新聞および医界の新聞はすべて、このかくれた一開業医の功績をたたえた。

滋は性来控え目で、人におごることなく、遠藤培地に對しても、全く偶然の結果だと謙遜していた。また論文についても学位号を請求する気持も全くなかった。ある医界の新聞は「市井開業医の中にもかかる篤学者のいることは、開業医の信用を高める」と書いている。

後年滋は高山植物に興味を持ち、その方面の論文も発表している。

昭和十二年四月二十日、六十八歳で心臓衰弱で他界した。墓は目黒の祐天寺にある。

(静岡県清水市)

## 42 新聞に見る昭和25年のシラス中毒

### 事件

—腸炎ビブリオ発見の端緒—

○長門谷<sup>(1)</sup>洋治・坂上<sup>(2)</sup>俊之

昭和25(一九五〇)年10月21日(土)、大阪府南部・大阪市を中心に、シラスを食べた二七二人に食中毒が発生、うち20人が死亡するという事件が発生した。いわゆる「シラス中毒事件」であり、死者数が多かった点でも注目されたが、原因究明の過程での中に腸炎ビブリオと命名された細菌が発見されたことで有名である。我々はこの事件を当時の新聞がどのように報じたのかを見てみた。使用したのは朝日新聞で、大阪本社より発行されたものである。当時は頁数も少なく、夕刊もまだ再刊されていないかった。

①10月23日(月)この日が本事件報道の最初、二面トツ

プで九段という大きな扱い。メイソ見出しは「十六名中毒死、重体百数十名。大阪の“シラス”禍」で本文を部分的に引用すれば以下である。

「泉佐野市の魚市場から流れ出た十一箱(七貫目)のチリメンジャコ(シラス)は同市と貝塚市とその周辺、大阪市の一部に死者十六名、重体百数十名という大集団中毒事件をひき起こした。このチリメンジャコは泉佐野市の沖合で二十日魚獲されたもの十二貫を、同市水産加工業 O氏(64)が塩うで加工して二十一日朝、同市魚市場に出荷、七人の魚商人から行商人の手を通じ、十一箱がこれらの街に流れ出たものである」

泉佐野市のある宅ではこれを買ひ昼食に供したところ、男の子(13)が約三時間後に発熱・はきけ・血便を伴う下痢を起して激しく苦しみ出し、同夜十時半に死亡。他にも同様症状で倒れるものが相次いだ。問題のシラスと加工に用いた岩塩、患者のトシヤ物を国警大阪府本部鑑識課、阪大病院で鑑定中だが、単なる腐敗ではなく、毒物混入の疑いが濃いと。

一方、同一紙面でO氏は塩に異常はないと述べ、また

阪大医学部法医の大村(得三)教授は当初亜硝酸ソーダによるものではないかとの疑いをもったが、化学的検査により否定できたとした。そして22日、大阪市、泉佐野市、貝塚市一体にラジオのスポットニュース、警察の放送車などにより「シラスを買った人は食べないで」との広報が行われた。

②24日付。二面トップ六段。見出し「原因究明に躍起。シラス中毒 大阪の死者は19名」写真には「白ネズミで実験する阪大法医学教室係員(左端は大村教授)」と説明がある。

別に「食中毒はなぜ起るか」という阪大梶原(三郎)教授(衛生学)の談話が添えられている。記事中には法医学教室の他に「阪大微生物病研究所に依頼して細菌培養にとりかかった」と記す。微研での相手が藤野恒三郎教授であったことはたしかであり、同氏もその論考『腸炎ジブリオ』(臨床科学)27巻一五七五頁、一九九一年)で「23日の朝、法医学教室の四方一郎助手を連れて、阪大微研の奥野良臣助教授が、私の研究室に現れた」と記している。

③25日付。二面に四段。見出し「ネズミは死んだ。シラスの秘密へ一歩」法医学教室と微研では「死んだハツカネズミ、モルモットの臓器から採取した有毒性細菌を抽出、これを動物に注射して、もし動物が死ねば細菌性の原因と確定されるわけで、一兩日中に判明する」としている述べたと。

④26日付。二面に三段。見出し「細菌の分離に成功。大阪の原因調べ」本文に「二十五日午後、阪大微生物病研究所ではある種の細菌の分離に成功、これがはたして病原菌かどうか注目されるにいたった」と記す。なお同日紙面に「更に一名死亡」とあり、これで死者20名となる。

⑤27日付。三面に三段。見出し「ジャコ中毒、26年前にもあった。当時はプトマインで解決」で阪大での細菌調査には触れていない。

実は26日に藤野教授は新細菌の純粹培養に成功していた。五日間連続で報じられた本事件の報道はここで中断。

⑥11月2日付。三面に三段。見出し「細菌と推定。ジャコ中毒原因」大阪府衛生部が阪大などの関係者懇談会

を開き「ある種の細菌が死因と推定される」ことに意見の一致をみたと。以後、関連記事はみあたらない。なお紙面には藤野教授の名は一度も登場しない。

昭和30(一九五五)年、滝川巖氏は国立横浜病院の病院給食を原因とした食中毒より一種の細菌を見出し、好塩菌と命名したが、これが、藤野教授の菌と一致することを知った。

のち、この菌は腸炎ビブリオと命名された。

(滝川巖・古西義麿・千住ともこ氏に感謝します)

(1)大阪府豊中市  
(2)京都府城陽市